

令和7年度 学校評価

評価基準 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

I. 教育理念・目標

評価項目	自己評価	学校間評価
1.理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特徴が明確になっているか）	3.8	3.6
2.学校における職業教育の特色は何か		
3.社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか		
4.学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか		
5.各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか		

II. 学校運営

評価項目	自己評価	学校間評価
1.目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.9	3.9
2.事業計画に沿った運営方針が策定されているか		
3.運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか		
4.人事・給与に関する制度は整備されているか		
5.教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか		
6.業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか		
7.教育活動等に関する情報公開が適正にされているか		
8.情報システム化等による業務の効率化が図られているか		

III. 教育活動

評価項目	自己評価	学校間評価
1.教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.6	3.8
2.教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか		
3.学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか		
4.キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか		
5.関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか		
6.関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか		
7.授業評価の実施・評価体制はあるか		
8.職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか		
9.成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか		
10.資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか		
11.人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか		
12.関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか		
13.関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか		
14.職員の能力開発のための研修等が行われているか		
15.教員の研究活動を保障（時間的・財政的・環境的）しているか		
16.教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか		

IV. 学修成果

評価項目	自己評価	学校間評価
1.就職率の向上が図られているか	3.6	3.6
2.資格取得率の向上が図られているか		
3.退学率の低減が図られているか		
4.卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか		
5.卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか		

V. 学生支援

評価項目	自己評価	学校間評価
1.進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.9	3.9
2.学生相談に関する体制は整備されているか		
3.学生に対する経済的な支援体制は整備されているか		
4.学生の健康管理を担う組織体制はあるか		
5.課外活動に対する支援体制は整備されているか		
6.学生の生活環境の支援は行われているか		
7.保護者と適切に連携しているか		
8.卒業生への支援体制はあるか		
9.社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか		

VI. 教育環境

評価項目	自己評価	学校間評価
1.施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.0	3.3
2.学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか		
3.防災に対する体制は整備されているか		

VII. 学生の受け入れ募集

評価項目	自己評価	学校間評価
1.学生募集活動は、適正に行われているか	4.0	3.7
2.学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか		
3.学納金は妥当なものとなっているか		

VIII. 財務

評価項目	自己評価	学校間評価
1.中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4.0	4.0
2.予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		
3.財政について会計監査が適正に行われているか		
4.財務情報公開の体制整備はできているか		

IX. 法令等の遵守

評価項目	自己評価	学校間評価
1.法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0	3.6
2.個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		
3.自己評価の実施と問題点の改善を行っているか		
4.自己評価結果を公開しているか		
5.学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか		

X. 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価	学校間評価
1.学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.0	3.0
2.学生のボランティア活動を奨励、支援しているか		
3.地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか		

【令和7年度重点的に取り組んだ目標の評価結果】

目標1. 質の高い教育実践

カリキュラム評価に基づいた授業の改善と実施について、教官会議にて授業案の提示、演習内容・方法の検討を行い、学生のレディネスに合わせ教育目標が達成できるようにした。また、講義・演習・実習の内容や学習効果を考え進捗を検討する機会を設けた。客観的な指標を用いたカリキュラム評価は実施できておらず、今後どのような指標でどのように評価をするかを検討し実施する必要がある。

研究授業の実施では学内・学外を含め5件の研究授業を実施した。他施設の2年課程看護師養成所の教員が参加し意見交換したことで、2年課程養成所の教育の強みや困難さを共有でき、教官の自信につながるとともに教授内容・方法の改善点を見出すことができた。また昨年に引き続き、他ハンセン病療養所附属看護学校と連携し新任教員を対象とした研究授業をWEBにて実施した。学生数の減少による教育実践の機会減少や少人数の学生に対する教育実施等の共通した課題がある中で、お互いに強化すべき点や疑問点をディスカッションし、刺激を受けながら教育力の向上に努めた。

目標2. 入学生の確保

広報活動の充実として、昨年度に引き続き学校訪問を実施し、その際、当校に進学した卒業生の近況やメッセージをポスターにして掲示を依頼した。また、多くの方に広報できるように2回の合同説明会の他、個別学校説明会を計画したが期待した参加者数は見込めなかった。多くの准看護学校が定員割れとなり、さらに進学者の減少、経済的理由から定時制や通信制を選択する進学者も増えている現状がある。全日制である当校の広報については説明会の回数や範囲の拡大のみならず、当校及び全日制であることの魅力をアピール強化することも必要である。

目標3. 学生個々に応じたキャリア支援

キャリアを見据えた就職支援の実施として、入学時より就職ガイダンスや個別面接を複数回実施し、学生個々に合った進路を選択できるように支援した。職員採用試験が年々早まる一方で、実習を後期に計画しており実習を通した自身の進路選択は難しい。インターンシップや説明会、業者のガイダンスを受けられるように今後もアナウンスや学校内企画を継続する。

目標4. 働きやすい職場環境づくり

業務改善・業務整理と連携・協働の強化として業務の偏りや重複を見直した。詳細な業務内容の検討やマニュアル整備に着手できておらず引き続き実施する必要がある。